

◆ 実戦問題 45 ◆

*道信^{みちのぶ}の中將^{なかつら}の、山吹^{やまぶき}の花を持^もちて、*上^{うへ}の御局^{みつぼね}といへる所^{ところ}を過^へぎけるに、女房^{にようばう}

達^{たち}あまた*るこぼれて、「さるめでたき物^{もの}を持^もちて、(1)ただに過^へぐるやうやある」

と、言^いひかけたりければ、(2)もとよりやまうけたりけむ、

A *くちなしに*ちしほやちしほ染^そめてけり

と言^いひて、さし入^いれたりければ、*若^わき人々^{ひと}、(3)え取^とらざりければ、奥^{おく}に、*伊勢大^{いせのだい}

輔^{すけ}がさぶらひけるを、「あれとれ」と*宮^{みや}の仰^{おほ}せられければ、うけたまはりて、

*一間^{ひとま}が程^{ほど}を、*ぬざり出^いでけるに、思^{おも}ひ寄^よりて、

B こはえもいはぬ花^{はな}の色^{いろ}かな

とこそ、付^つけたりけれ。これを、*上^{うへ}聞^{きこ}こし召^めして、「(4)大輔^{だふ}なからましかば、恥^{はづ}が

ましかりける事^{こと}かな」とぞ、仰^{おほ}せられける。

北海道大(文)
鹿児島大(教)
関西学院大(法)
出題文

出典

『俊頼髄脳』は、P146参照。

*道信の中將＝藤原道信。平安時代中期の歌人。

*上の御局＝宮中で、天皇の妃のために、帝の御座所の近くに与えられた控えの部屋。

*るこぼれて＝こぼれるようにはみ出してすわっていて。

*くちなし＝梔子。山吹色(黄色)の染料として用いられた植物。

*ちしほやちしほ＝何度も何度も。

*若き人々＝若い女房たち。

*伊勢大輔＝平安時代中期の女流歌人。曾祖父から四代続く和歌の名門の出身であった。

*宮＝一条天皇の中宮彰子。伊勢大輔は、この人のもとに仕えていた。

*一間が程＝一間ほどの距離。

設問

問1 傍線(1)、「ただに」の内容を示しながら現代語訳せよ。

問2 傍線(2)の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 当たり前にしつらえたのだろうか
- ② 入り口から座っていたのだろうか
- ③ 最初から用意していたのだろうか
- ④ 根元で切つて束にしていたのだろうか

問3 傍線(3)、「若き人々」はなぜ差し出された山吹の花を取ることができなかったのか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 上の句があまりにすばらしかったから。
- ② からかったのではつが悪いから。
- ③ 下の句を考えつかなかったから。
- ④ 主人の許可を得ていなかったから。
- ⑤ 身分が違いすぎて失礼になるから。

問4 A・Bの和歌について、

(i)このように、一人が詠んだ句に対して他の者があとを続ける文学遊戯を何と呼ぶか、記せ。

(ii)Bの「こはえもいはぬ」という句の趣向は何に對するものか。問題文中から該当部分を抜き出せ。

問5 傍線(4)について、「上」はなぜこのように言ったのか。その理由を五十字以内で説明せよ。

単語チェック

- ☑あまた 副
- ☑めでたし 形容詞
- ☑まうく 動 下二
- ☑うけたまはる 動 ラ四
- ☑えもいはず 連語
- ☑聞こし召す 動 サ四

「一間」は寝殿造りで柱と柱の間一つ分をいう。約一・八メートル。
*ぬざり出でけるに＝膝をすって出ていく間に。「ぬざる」は、すわったまま膝で進むこと。
*上＝帝。ここは一条天皇のこと。